

# イメージ的モデルよりも前に大切な教育法

富士通ラーニングメディア

君島 浩

〒144-8588 東京都大田区新蒲田 1-17-25

電子メール： NAD00034@nifty.ne.jp

## 概要

私は、イメージ的モデルや比喩を重視しない立場で討論に参加する。重視や立場という言葉は比喩だそうだ。私は学校での情報教育の当事者でも客でもない第三者として討論に参加する。私は研究者が手薄な「人間の労働を教育する人間の労働」の研究に専念したため、学校教育や情報処理にはできるだけ取り組まないようにしている。本論文は、パネル討論の冒頭発表と想定議論を「です」調で書くことにする。学校教官は長い冒頭発表や長時間の質問・回答をしがちだ。上司の厳しい指導を受けてきた社員の考えるパネル討論を、イメージ的モデルではなく実物見本で示す。

## 1. はじめに（冒頭発表）

富士通ラーニングメディアの君島浩でございます。企業内教育の教育技術者を育成する教育技術者です。私はイメージ的モデルを重視しない立場でこの討論に参加します。私はメタファーを教育に使ったり、メタファーを使う教育方法を教育技術者に教えたりした記憶がほとんどありません。ただし、立場という言葉や矢印のようなメタファーを無意識に使うことはあるようですが、

私がかたみに情報教育をする時は、実物を見せたり、用語を正統的に説明したりすることに力を入れてきました。分解したハードディスクを見せたり、タスクという用語の語源を話したりします。

以前の研究会で話したように、倫理と技法とマナーという言葉の間違って使う例があります。インターネットによる情報伝達のマナーを教える人が、言葉のマナーを守らないのでは困ります。

私は慶應大学の藤沢校舎で日本語作文を教える時、言葉の意味を定義する方法をしっかり教えます。意味定義が下手だと比喩へ逃げやすいです。

産能短大の浪平先生は、アルゴリズムや数式を視覚化するプログラムを教育に使っています。これも比喩というよりは実体を伝える工夫です。

これで冒頭発表が約2分になりますので、冒頭発表を終わります。討論をしましょう。

## 2. 想定質問と回答

質問「君島さんは学校の当事者でない、と言いな

がら大学の非常勤講師をしています」

回答「企業で教える内容をそのまま教えるということで引き受けているだけです。私は慶應の作文講座のほか、静岡大学と富山大学で教育システム工学を教えています」

## 3. 私からの意見・質問の候補

「産能大学の浪平先生はソートアルゴリズムなどの動作を視覚化するプログラムで教育しています。一般数学のものもあります。比喩よりも視覚化プログラムの普及が先決だと思います」

「教育工学者のパネル討論は発表が長くて、ほとんど対話になりません。討論という言葉の意味を気にしない人、聞き手のことを気にしない人が、教育を論じられるのでしょうか？」

「私が慶應で教えていることの例は『鉛筆という言葉の意味を定義しなさい』です。Windowsはどう定義しますか？HTML、という言葉の意味はどう定義しますか？」

「起点頁（ホームページ）という用語の間違って使うような教育者が比喩を使っているのでしょうか？ホームページのメタファーは野球のホームベースです。こうやって比喩を使うと分かりやすいのは認めます。でもホームページを起点頁という漢語に直せば比喩なんか要りません」

「ネットワークに関するマナー、技法、倫理の教育も混乱しています。違法複製は法律問題です。文面を簡潔にするのは技法の話題です。倫理はマナーよりはるかに広い人生の指針の意味です。こ

れらをマナーという呼称で教育するのは、優秀な生徒も逆の生徒も困惑するでしょう。言葉に鈍感な先生に情報伝達を教える資格はありません」

「会社は、プログラムを著作したり、ソフト特許を出願したり、複製や特許使用を許可して金儲けする作業方法を教育しています。実際に複製権や特許の取引をよく経験します。学校が著作権法や違法複製を教えたがるのは、どういう教育原理から出てくる結果ですか？」



写真 3-1 複製権の発表をする米国映画作者組合

「情報処理学会で著作権の譲渡の論争があります。譲渡可能なのは複製権であって、英語にはそもそも著作権に相当する言葉はありません。一方、市販本の copyright 表示は出版社名を表示すべきなのに、日本では間違って著者名を表示しています。このように根本がいい加減なのに、学校で複製権の教育をしていいんでしょうか」

「広々表（スプレッドシート）で重要なことの一つは行間を詰められることです。どこまで詰めると見にくくなるかは空間設計の話題です。教える話題を洗練することの方が、メタファーを使う以前にやることだと思いますが」

「広々表で重要なことの一つは見出し用語です。会社の表の見出しに入る用語は大体決まっています。商品名、材料名、顧客名、従業員名、会計費目名などです。計算やグラフを教える以前に、これらの用語やインスタンスの体系を教えることが大切ではないでしょうか」

「米国のノバト高校はコンピュータを導入しても従来のカリキュラムを格別に変えません。道具がコンピュータに変わっただけということです。私はOHPによる発表技法を教えていましたが、パソコンになっても内容はあまり変わりません。

発表教育は道具の使い方ではないんです」

「学校教育の延長は会社や役所や病院での教育です。学校の先生は大岩先生などを除けば、会社教育学に知識も関心も持っていません。だから会社の常識が学校関係者に伝わらないんです」

「学校教育改革は成功しないと思います。巨大な『日本学校株式会社』は、電電公社の真藤さんのような強烈な親分が指揮しない限り改革できないと思います」

「米国は自然科学も社会科学も人文科学も教育科学も均等に博士がいます。日本は自然科学偏重を続けています。こういう根本の問題を放置しておいて、学校教育改革も何も無いと思うんですが」



写真 3-2 学校教師からアメリカン航空の教材開発部長になった教育学博士

#### 4. おわりに

情報教育を改善するに当たって、新しい教育法ではなく、旧来の教育法をきちんとやることを重視したい。学会は新しい研究をする場である、ということが弊害になっていると思う。未熟だったことの改善でもよいのではなかろうか。

#### 参考文献

- 1) 浪平博人：「感知力—混沌の中から新しい方向をつかみ出す」、プレジデント社、(1992)
- 2) 瀬戸賢一：「メタファー思考」、講談社現代新書、(1995)
- 3) 河合正義：「図解：文章の書き方」、実務教育出版、(1996)
- 4) 君島浩：「情報倫理の言葉遣い」、98-CE-50.
- 5) 君島浩：「日本語作文作法」、日科技連、(2000.2)
- 6) 君島浩：「米国におけるIT教育・教育ITの現状」、SEA教育事例研究会、(2000.6)